

個人情報保護およびプライバシーの保護

介護サービス利用者の視点

介護を受けるためには、自身の個人情報を提供する必要がある。
同様に、介護を受けるためには、自身のプライバシーをさらけ出す必要がある。
介護サービスの利用者は、たとえ本人が希望していなくても個人情報を公開し、プライバシーを明かさなければならない状況に置かれている。

個人情報とプライバシー

介護サービスを受けるためには、住所、家族構成、世帯収入、生活歴、既往歴など多岐にわたる情報が求められる。
介護を提供される方々は、清潔を保つために裸にされることもあり、他人の目に晒されることを理解している。
個人情報とプライバシーは、極めてデリケートで繊細な領域。
誰もが、自身の個人情報やプライバシーが無闇に晒されたり、公開されたりすることを避けたいと考えている。
介護サービスを受ける方々には異なる側面が存在する。

個人情報保護法とは？

個人情報保護法は、2003年に制定されました。
個人情報は、介護に限らず社会生活において必要なものであり、適正に取得され、利用目的が通知され、適切に利用されることで、私たちの生活が便益を受けることができる。

個人情報保護法の要点

個人の権利と利益、個人情報の有用性を考慮したルールが設けられている。
情報が目的外に使用されたり、詐欺や犯罪に繋がることを防ぐための規定も含まれている。
インターネットの普及により、情報の共有が容易になった現代において、個人情報の保護には十分な注意が必要。

個人情報の具体例

特定の個人を識別できる情報が個人情報とされる。
例:氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、マイナンバー、勤務場所、職業、収入、家族など。

介護サービス提供機関には、個人情報が含まれるファイルや写真、診察券、薬手帳などが存在する。

個人情報取扱事業者としての自覚

私たちは、個人情報取扱事業者であり、個人の人格尊重の原則を踏まえ、慎重な取り扱いが求められる。

個人情報を適正に扱うためのポイント

1. 利用目的を特定すること
2. 本人に利用目的を明示すること
3. 利用目的外の使用を避けること
4. 不正な手段で情報を収集しないこと
5. 正確かつ最新の情報を保つこと
6. 漏洩や紛失を防ぐこと
7. 個人情報管理のための研修を実施すること

プライバシーとは？

プライバシーは、個人情報以上に、個人や家庭内の私事・私生活、個人の秘密などが他者によって侵害されない権利を指す。

介護サービスにおいても、利用者のプライバシー保護は重要。

介護現場におけるプライバシー

プライバシーに介入しなければ、介護サービスは提供できません。

見守り、付き添い、所在確認、入浴、排泄、様子観察など、私たちの業務は利用者のプライバシーに介入する必要がある。

自立から介助が必要な状態に変わる過程で、プライバシーに介入するニーズが変化することに注意が必要。

プライバシーへの配慮

プライバシーには配慮が必要であり、利用者の羞恥心や自尊心を尊重することが大切。

プライバシーへに介入していると自覚することが大切

排泄や入浴時に、適切な声かけや衣類の配慮を行うこと。

不必要な肌の露出を避けること。

臭いなどへの配慮を忘れずに。

他の利用者に対してのプライバシー関連の話題を控えること。
ご利用者の羞恥心や自尊心を尊重した声かけを心がけること。

研修まとめ

個人情報を利用者と施設職員にとって重要な資源であり、適切な取り扱いが求められる。

個人情報を外部に漏らさないようにすることが不可欠。

利用者の情報を他者と共有しないこと、外部のプラットフォームで情報をやり取りしないことが重要。

個人情報が含まれるデータを慎重に扱うことが求められる。

介護サービス提供者としての自覚を持ち、個人情報保護法の指針に従って行動する。

プライバシーの重要性を理解し、介護サービスにおいても適切な配慮が必要。

ご利用者のプライバシーに対する配慮が大切であり、定期的なチェックを通じて向上させていくことが重要。

安心できる環境を提供するために、私たち一人ひとりが役割を果たす。